中野区立歴史民俗資料館だより

しいのき

第72号

旧中野刑務所正門（文化財名：旧豊多摩監獄表門）

表門（旭日章）の紋章（現在、門内部に保管中）

君の名は

歴史民俗資料館　館長　佐藤　加奈

長らく国が管轄する地にあった旧中野刑務所正門は、昨年、令和３年（2021）３月、晴れて中野区の所有となりました。区立小学校の新校舎建設用地として、門の建つ敷地を区が取得したためです。

大正４年（1915）の市谷監獄の移転に伴い開庁、同年10月に豊多摩監獄と称し、大正11年（1922）には豊多摩刑務所と改称されました。戦後の米軍による接収時期を経て、昭和32年（1957）には中野刑務所と改称。昭和58年（1983）に中野刑務所が廃庁になると、本体部分はすっかり取り壊され、ひとつ遺された門は、旧中野刑務所正門と呼称される一方、戦時中、戦争反対を唱えた多くの知識人が収監されたことから、いつしか「平和の門」と呼ばれるようになります。そして、令和３年（2021）６月４日、区の指定有形文化財となった門は、旧豊多摩監獄表門（きゅうとよたまかんごくひょうもん）という文化財名を得たのでした。

都内でも名だたる大正期の煉瓦造建造物でありながらも、幾度も名前が変わり、取り壊しで形が変えられ、そのうえ昭和58年（1983）以降は法務省の公的施設に組み入れられたこともあって、門は地元住民にとっても分かりづらい存在でした。

昨年11月に区主催の初の公開見学会を開催したところ、たった２日の間に約5,500人もの見学者が門を訪れました。謎めいた建造物に対し長年抱いていたもやもや感、それを解消せんとばかりに多くの方々が区内はもとより関東圏から足を運ばれたのでした。

公開に向けた修復と移築のため、今年の秋から門はいったん工事用フェンスの奥へと姿を消します。夕日を受けて朱色に輝く美しい門をいつでも鑑賞できるようになるまでの間、当館では今年度から門に関する展示等を試み、門の建築的価値やそれを取り巻く歴史について、皆さんに知っていただく機会になればと考えます。

（コーナー展「旧豊多摩監獄表門関連展示」令和４年（2022)12月６日〔火〕から翌１月14日〔土〕まで）

文化財よもやま話

～獅子と狛犬～

令和４年（2022）５月24日（火）から７月10日（日）まで館蔵品展「獅子頭」を開催しました。当館の獅子頭コレクションと東京都無形民俗文化財の「江古田の獅子舞」の資料あわせて200点ほどと、中野区内の神社にある狛犬を写真パネルで紹介する企画です。

獅子頭の展示で、なぜ狛犬も紹介するのか？と思われるかもしれませんが、神社の参道の狛犬は、もとは「獅子」と「狛犬」という別々の霊獣でした。平安時代、獅子と狛犬が対で宮中の調度品として置かれており、天皇から見て左側に口をあけた黄色の獅子、右側に口を閉じ角のある白の狛犬を置く、と平安時代の書物（『類聚雑要抄』）に記されています。

狛犬のルーツである獅子は、シルクロード経由でインド・中国にもたらされ仏教と結びついた唐獅子が、朝鮮半島を経由して日本に伝わり「高麗の犬」と呼ばれ、胡麻犬と書くこともありました。また日本では、犬の嗅覚と聴力が悪霊や変事を感知し、吠え声で邪悪なものを追いはらうと考えられ、神聖な場所を守護する狛犬に犬の力の要素を重ね合わせたようです。

時代が下ると狛犬は神社・寺院本殿内に置かれ、江戸時代には現在みるような参道狛犬が普及しました。

中野区内の神社には14の神社に25対50体の狛犬があります（令和４年５月時点）。銘のある最古の狛犬は文政13年（1830）の鷺宮八幡神社・大和町八幡神社の狛犬ですが、東中野氷川神社社殿の狛犬はさらに古く「江戸尾立ち型」と呼ばれます。また存在が記録されていなかった上高田氷川神社社殿内の狛犬も江戸尾立ち型で、外見の特徴から東中野氷川神社に次ぐ古さである可能性があります。

中野区の狛犬の形状は大別して①江戸尾立ち型 ②江戸流れ尾型 ③昭和はじめ型 ④岡崎現代型があり、時代が下るにつれ大型化し、いかめしい顔になっています。

（北河）

東中野氷川神社社殿内の狛犬（江戸尾立ち型）

大地に眠る歴史

遺跡からみた哲学堂公園のむかし

哲学堂公園は、中野区を代表する区立公園で、最近では令和２年（2020）３月に国指定の名勝に指定され、区民の関心の高い公園となっています。

哲学堂公園の土地は、東洋大学の創始者である井上円了が、精神修養的公園とするために購入しましたが、それ以前は和田山と呼称される場所で、平家討伐の為に挙兵した源頼朝の重臣である和田義盛が陣所にした伝説があります。

写真は、現在の弓道場を地下に建設する際に発掘調査したものです。発掘調査では道路状遺構と溝状遺構が見つかっています。道路状遺構は幅が2.9～5.6mの規模で、溝状遺構は大きいもので幅が３～3.5mの規模で発掘されました。その他にも児童遊園周辺でも試掘調査を行っていますが、同規模の溝が見つかっています。ではこの道路や溝はいつ何のために使われたものなのでしょうか？出土した遺物の分析から年代は、18世紀後半から19世紀半ば頃のもので、明治初頭には埋められて、役割を終えたことが分かりました。

江戸時代の和田山は越後高田藩榊原家の飛び地で、江古田村の名主である深野孫右衛門が代々管理を任されてきた場所でした。その後明治に入り華族である五辻安仲の別邸が建設されました。さらに明治11年（1878）頃に五辻安仲邸を現在の江古田小学校の前身である仮校舎として利用し、その後明治36年（1936）に井上円了が買い取り、哲学堂公園を整備していきました。このことから発掘された道路と溝は深野孫右衛門の時代に構築されたことが分かりました。

深野家の記録によると、深野孫右衛門は徳川将軍家の鷹狩に関連する鷹番であったことが記されているので、深野家が、管理の一環で和田山を造成したのではないかと考えられます。

発掘調査の結果からは、和田義盛に関連する遺跡は見つかっていませんが、このような積み重ねによって、哲学堂公園の歴史が明らかになってくるかもしれません。

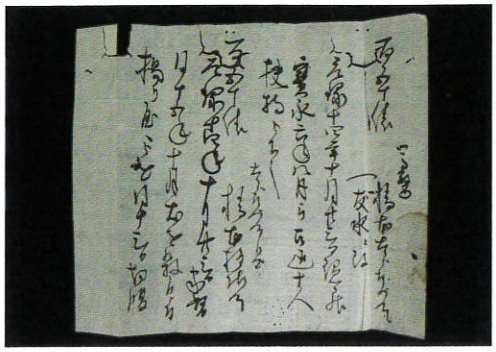
（藤掛）

道路状遺構

古文書つづり

犬を殺傷して切腹 －企画展「大河原家文書」こぼれ話－

当館では令和４年（2022）７月12日（火）から８月31日（水）まで企画展「大河原家文書－加賀藩家臣の近世・近代－」を開催しました。「大河原家文書」は、江戸時代に加賀藩前田家に仕えた武家・大河原家に伝来した貴重な文書群です。平成15年（2003）に当時区内在住であった末裔の方より寄贈を受け、その歴史的・学術的価値から中野区指定有形文化財となっています。



「覚書」（「大河原家文書」）

この度の企画展では、館蔵の「大河原家文書」から史料を厳選して武家のあゆみを紹介しました。一方で総数107点におよぶ史料のなかには、残念ながら企画展に出展することができなかったものが多くあります。本コラムでは、その中から興味深い「覚書」を紹介したいと思います。

この「覚書」には、元禄15年（1702）10月に橋本権佐という人物が犬を殺してしまい揚り屋（牢屋）に入れられ同月13日に切腹した、と記されています。橋本権佐は江戸幕府に仕えた馬医で、馬の医療に従事していました。第５代将軍・徳川綱吉の治世、動物愛護を目的とする「生類憐みの令」が発せられ、中野にも犬の収容施設「御囲」が建設されました。そうしたなかで権佐は犬を殺傷し、切腹を申し渡されたのです。この事件の影響で幕府から加賀藩に、改めて生類憐みの令を厳守するよう注意が届いています（『加賀藩史料』第５編）。なぜ権佐の事件について記した覚書が大河原家に伝来したのでしょうか？本文書群に含まれている他の史料によると、実は権佐は大河原五左衛門の姉婿であったようです。史料を読み込み、他の史料にも目を向けることで意外な歴史が明らかになったとき、歴史研究の醍醐味を実感します。（上符）

中野往来

川とともにあった弥生町・南台

昭和42年（1967）に住居表示が整備され、神田川流域の遺跡から弥生土器が数多く発見されたことに因んで「弥生町」が、区の南端にある幡谷丘陵の一角にひらけた町並みであることから「南台」の町名が生まれました。ともに神田川の南側にある地域で、川を望む高台には、弥生時代や古墳時代の遺跡が広がり、川をめぐる低地帯には大正時代頃まで一面に田んぼが広がっていました。

南台五丁目で区内に流れ込んだ神田川は、弥生町六丁目の区界を流れる善福寺川と弥生町五丁目で合流し、東に向かって流れています。江戸時代には神田上水として整備され、江戸の人々の飲み水として利用されました。大正頃まではタナゴ、ナマズ、ウナギ、ドジョウなどがおり、蛍が舞う光景が見られた清流であったといいます。木々が生い茂り、崖の裾野には淵があり、修験者が身を清める場所になっていました。江戸時代から大正時代にかけて“本郷用水”と呼ばれる水田に水を引くための用水堀がありました。現在のれんげ公園付近（弥生町五丁目）に堰（本郷堰）をつくり、神田川から分水し、台地のへりに沿って流し、菖蒲橋付近（本町一丁目）で再び神田川に合流させます。春になると農家の人たちが集まり、川岸の葦を刈り、編んで神田川に渡してある大丸太に掛けて草堰をつくり、止めた水を用水堀へ引き入れました。

弥生町と南台は、江戸時代には本郷村の一部、本郷新田の一部と雑色村だった地域です。雑色村の中心は旗本領の川島商店街周辺と直轄領の南台三丁目38番周辺の二つに分かれており、それぞれに高札場があり、旗本領側に正蔵院と神明氷川神社、直轄領側に寶福寺と多田神社がありました。雑色村の鎮守であった多田神社と、川島地域の神明氷川神社は互いに人々の信仰を集め、例大祭を一年ごとに交代で行いました。祭礼では大掛かりな回り舞台もつくられ、芝居や雑色囃子が演じられるなど大変賑やかだったといいます。（栩木）

多田神社

事業報告

各種事業経過

2021年10月～2022年９月

事業名	内　　容	期　　間
企　画　展	「東中野の日本閣－婚礼場の100年－」 「おひなさま展」 「大河原家文書－加賀藩家臣の近世・近代－」	R3.11/2～12/18 2/15～3/19 7/12～8/31
館蔵品展	「『はかる』道具」 「火の利用～灯す・焼く・暖まる～」 「獅子頭」 「中野でめぐる郷土玩具の旅」	R3.9/1～10/31 12/21～2/13 5/24～7/10 9/1～10/30
コーナー展	「地域展示『弥生町・南台』」	4/29～5/31
ロビー・ミニ展	「地域展示『江古田』」 「文化財防火デー」 「山崎家の名品【後期】」	R3.8/3～10/31 1/18～1/30 3/15～4/30
夏休み講座	れきみんサマーフェスタ2022 「勾玉作り」「ミニはにわ作り」「カラフル砂時計」 「むかしのくらし体験」「シーサー作り」「ペットボトルDE風鈴」 「牛乳パックの六角形ボックス」「張り子のお面作り」「消しゴムはんこ」	7/23～8/31
講　　座	古文書講座　講師：笠原 綾氏、大友 一雄氏 伝統文化体験講座「けん玉教室」　講師：伊藤 佑介氏 哲学堂講座「一から学ぶ哲学堂」　講師：佐藤 厚氏 古文書講座　講師：笠原 綾氏、大友 一雄氏	R3.9/25～10/30 12/4 9/1・9/8 9/24～10/29
公開事業	秋季「山崎家庭園・茶室の公開」 春季「山崎家庭園・茶室の公開」	R3.10/1～10/31 4/23～5/8
そ　の　他	小学校総合学習見学９校	

埋蔵文化財対応

2021年４月～2022年３月

若宮１丁目14番民有地立会（4/15）
江原町２丁目１番民有地立会（4/27）
白鷺２丁目47番民有地立会（6/21）
沼袋３丁目17番民有地立会（7/8）
本町４丁目14番宮の台保育園立会（7/19）
弥生町４丁目15番民有地立会（7/27）
江原町２丁目28番民有地立会（8/3）
江原町２丁目16番民有地試掘（8/13）
・国庫補助
弥生町１丁目21番民有地試掘（8/31）
・国庫補助
沼袋３丁目17番民有地立会（10/6）
南台３丁目44番電気関連工事立会（10/7）
弥生町６丁目12番民有地立会（10/7）
新井４丁目19番電気関連工事立会（11/1）
若宮１丁目10番民有地立会（11/1）
白鷺３丁目５番民有地立会（11/10）
江古田３丁目３番民有地立会（11/10）
江原町２丁目29番民有地立会（11/26）
沼袋２丁目18番民有地試掘（2/1）・原因者
沼袋１丁目31番民有地立会（2/1）
松が丘１丁目１０番民有地試掘（2/3）
・国庫補助
新井３丁目37番旧法務省矯正研修所跡地確認（3/1）・国庫補助
新井３丁目37番旧法務省矯正研修所跡地確認（3/3）・国庫補助
白鷺２丁目29番民有地立会（3/10）
本町２丁目33番民有地立会（3/11）
弥生町４丁目28番民有地試掘（3/16）
・原因者
南台５丁目27番民有地立会（3/23）

寄贈資料一覧

2021年８月～2022年７月　敬称略：受入順

資　料　名	点数	氏名・団体名
天狗面 烏天狗面 鍾馗面	1 1 1	木下　務
親玉雛 木目込みの豆雛	1 1	武井　克予
くじら尺	2	井上　秀夫
江古田獅子舞 大獅子獅子頭収納箱 中獅子獅子頭収納箱	 1 1	髙崎　満
カメラ（ハッセルブラッド）	一式	西尾　東
罹災証明書 衣料切符 電話加入申込受付証 厚生年金保険被保険者証	1 1 1 1	横田　恵
武者人形	1	伊藤　せい子
化学天秤 竿はかり	1 2	金谷　芳雄

資　料　名	点数	氏名・団体名
交通系磁気カード 中野駅開業100周年記念 東中野駅開業100周年記念 西武鉄道 地下鉄東西線 総武線 中央線	 1 1 2 2 1 4	下條　文子
中野区立鷺宮小学校資料 学校日誌、公文書綴 教科書・手本類、写真類	 101	区立鷺宮小学校
ひな人形段飾り	一式	三村　芳子
木目込みひな人形 武者人形	一式 一式	田村　登志子
江古田獅子舞　笛 笛置き台	8 6	匿名
掻巻	1	藤原　規子

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

発行年月日　2022年10月１日
編集・発行　山崎記念 中野区立歴史民俗資料館
〒165-0022　東京都中野区江古田４－３－４
☎ 03(3319)9221　FAX 03(3319)9119